

## 衛生管理に係る実践事例



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



### 実践事例

#### 墨田区立東吾嬬小学校

##### 【実践の概要】

- 第5学年・6学年の飼育委員会の児童が、ウサギのケージの掃除、水替え、餌やりをしています。
- 実際に児童が世話をしているところを学校担当獣医師に見ていただき、指導・助言をいただきました。



世話の仕方について、助言をいただいているところ

##### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師をお迎えし、実際に当番活動で行っている世話の仕方を見てもらいました。
- ウサギを持ち上げるとき、立って行わないこと、飲み水の量に気を付けること、えさは「チモシー」を与えることで歯の伸び過ぎを防ぐことができることなどを教えてもらいました。
- 玄関で飼育しているため、様々な人が通ったり、音がしたりします。ウサギが隠れることができるような小屋や周りに囲いを付けて視線を避けることなどを教えてもらいました。
- 夏の暑さや冬の寒さの対策として、飼育用ゲージをエアコンが点いている部屋に入れ、ウサギの負担を減らすことを教えてもらいました。

##### 【児童の反応】

- 飼育委員会の児童が世話の仕方の意味を覚えてもらったことで、動物の命を預かっているという使命感をもつことができました。毎日、飼育日誌を書き、ウサギの体調変化に気を配ることができました。
- 飼育委員会の児童は学校担当獣医師から世話の仕方を教えてもらっていたことにより、第2学年の児童が生活科でウサギの世話を体験したときには、自信をもって第2学年の児童に世話の仕方を教えたり、世話の様子を見守ったりすることができました。



## 実践事例

### 世田谷区立松沢小学校

#### 【実践の概要】

- 飼育委員会（第5学年・第6学年）の児童が、学校担当獣医師からうさぎが快適に過ごせる環境について教えていただき、今までの飼育方法を変えて小屋の掃除、餌やりをかかさず行っています。
- 第1学年の児童は、ウサギなどの動物と触れ合う学習を通して心臓の音を聴いて動物の体調の変化についての話を伺いました。



#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会の活動では、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師をお迎えし、実際に飼育小屋の環境やウサギの健康状態等を確認いただいた後に、指導・助言をいただきました。

#### 【児童の反応】

- ウサギが餌によって体重が変わってくる話を受けて、人参を食べる量をへらしたり、体重を測ったりして健康管理に気を付けることができました。
- ウサギの生態を知ることによって、ウサギに興味をもち、前に比べてよく観察をするようになるなど飼育活動に関する意識が高まっています。
- 第1学年の児童は、ウサギに興味をもち、ウサギ係を作りウサギに餌をあげたり掃除をしたりするなど飼育活動を行うようになりました。



## 実践事例

### 中野区立美鳩小学校

#### 【実践の概要】

- 第5学年、第6学年の飼育委員会の児童が、モルモットが気持ちよく過ごせるように、小屋の掃除や餌やりを行いました。
- 第1学年、第2学年の児童が学校担当獣医師から、モルモットの飼育の仕方や、抱き方、飼育日誌の書き方などの話をしてもらい、上手に飼育ができるように取り組みました。



飼育委員会が丁寧に掃除をしています。

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師に来ていただき、第2学年の教室のモルモット小屋の状況を見てもらいました。干し草の量や住处など適切な環境になっているかを助言して頂きました。



#### 【児童の反応】

- 第2学年の児童は、掃除の時に干し草の量を考えて、小屋掃除をしたり、汚れたカップを丁寧に洗ったりするなどして飼育環境を整えています。
- 助言していただいたことをもとに、第2学年の児童が第1学年の児童に対して、小屋掃除や飼育日誌の書き方などを教えることができました。
- モルモットの体に少しでも変化が出た時には、すぐに担任の先生に報告するなど、モルモットを飼育する意識が高まりました。



## 実践事例

### 青梅市立河辺小学校

#### 【実践の概要】

本校では、ウサギを2羽飼育しています。飼育委員会の児童は、学校担当獣医師から生き物を飼うこと責任や、具体的な飼育方法について教えていただきました。



ウサギの爪を切る様子

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師から、次のことを教えていただきました。

##### ①飼育小屋の清掃、環境整備の仕方

飼育小屋の中にあるものを全て出して、古い牧草や糞で汚れた床を掃除しました。心地よいと感じる環境を作ります。

##### ②ウサギの抱き方

落ちないように低い位置で、そっと両手で抱きます。バスタオルなどで包むとよいです。

##### ③ウサギの健康状態

ウサギの体重からえさの量を計算しました。食べている様子や糞から健康状態をみます。

##### ④ウサギの爪の切り方

2人体制で行います。1人はウサギを抱き、1人がそっと爪を切ります。

#### 【児童の反応】

- 衛生的な飼育小屋を維持しようと意識して清掃活動を行うようになりました。
- 健康を考え、えさをウサギの好きなペレット中心から、牧草中心に変えました。
- 分からないことを学校担当獣医師に質問するなど、飼育への興味や関心が広がりました。



## 実践事例

### 多摩市立連光寺小学校

#### 【実践の概要】

本校では、2頭のシバヤギの親子（母親と子）、ウサギ2羽を飼育しています。

実際の飼育環境を見ていただき、飼育動物が病気やけがなどなく過ごせる環境であるか、エサ、清掃などの世話や、人のふれあいは適切であるかについて、指導・助言をいただきました。

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

6月の年度当初の計画立案の際の相談時に、飼育動物を視察していただきました。また、9月の飼育委員会児童への飼育動物の世話についての心構えや飼育環境を整えることについての指導、1月には教員向けに飼育動物への飼育心得、学校としての取り組み方、衛生管理で気を付けることなどを研修会形式で実施しました。

特に、ウサギの飼育環境については、屋外の小屋で床部が砂地であったため、糞尿を完全に取り除くことが難しく、衛生環境的に厳しいとの指摘を受けました。校内で検討を行い、12月より1羽ずつ大きめのケージに入れ、校舎内で飼育するよう変更をした。また、餌は草を人工的に固めたものではなく、学校敷地内に生えている草を中心に与えるとウサギの健康上もよいとアドバイスを受けました。

#### 【児童の反応】

○ ウサギの飼育環境を変えたことで、児童が休み時間や放課後に日常的に飼育動物と触れ合えるようになりました。ケージ飼いに変更した12月より、ウサギの世話をこれまで飼育委員会が行っていたところを、ウサギのふれあい授業を終えた2年生に全面移行することになりました。飼育動物がより身近になったといえます。

また、特別な支援を必要とする児童が、クールダウンの場としてウサギと接することで情緒の安定に寄与する結果も生まれました。アニマルセラピーとして有効活用していきたいです。



室内ケージ飼いになったうさぎ